

坂本 早枝子（文学部文学科日本文学専修）

私は、この度、地方自治体の職員採用試験を受験し、晴れて司書職での採用を頂くことができました。そこで、私の就職活動の経験をここに記していきたいと思います。

1. 志望動機

私は、幼い頃から図書館によく通い、読書好きなことから、中学生頃から司書での就職を考えていました。しかし、その頃はなんとなく興味がある程度で、心底「司書になりたい」と思い始めたのは図書館実習からです。私はあえて利用経験のない小規模な公立図書館を選び、初めて目にする図書館サービスや利用者の満足を深く求める姿勢に感銘を受けました。書店や大学図書館でのインターンシップも行いましたが、公立図書館での実習がとても感慨深く、司書への憧れを抱いたことから、司書での就職を真剣に考え始めました。

2. 教養試験

私が受けた自治体では、一般に公務員試験と呼ばれるような問題は出ず、高校入試程度のものが出題されました。しかし、これは特殊なケースです。これまでの先輩方のお話や、司書職の就職活動情報によると、やはり地方自治体の試験では大卒程度の公務員試験と同様な問題が出題されるはずですが、そのため、受験を考えている方は、早めに対策をしてください。特に、民間企業との併願であればなおさらです。私自身、民間企業が終了してから本格的に開始したため、十分な準備ができず、不安な状態での受験でした。安心して受験するためにも、早めの対策を心掛けてください。また、私の場合、専門科目試験はありませんでしたが、今思えば、面接対策に使えたと思うため、普段から対策を練るべきです。

3. 面接試験

どの就職活動にも言えることですが、やはり面接試験が合否を左右すると思います。面接試験ではまず「慣れる」ことが大切です。私は、民間企業で多くの経験を積みました。その

結果、司書職での面接のときにはもうその緊張感には慣れ、予想外の質問にも自信を持った姿勢で臨むことができました。これはやはり、民間企業で鍛えたおかげです。最初はなかなかうまく話せず、辛いことが多いと思いますが、何度も繰り返すことで、「こんな質問が来ればこう返そう」とイメージすることができるようになります。また、回数を重ねることで常に明るいトーンと笑顔で話すことやマナーが自然と身に着き、より良い面接ができてくるため、面接は何度も経験してください。

次に、何よりも「司書になりたい」という思いを熱く伝えることもまた大切です。私は司書を志望したきっかけや、司書就職に向けてどんな行いをしてきたのかについて、自分なりの考えを述べることで、いかに司書を志望しているのかが面接官に伝わるように話しました。面接では体裁の良い事話すよりは、ありのままの自分で話すことが重要です。そういう意味でもやはり、「面接慣れ」が必要であり、司書や図書館に対する自分なりの考えを持つことが面接官に好印象を与えます。実際、ありきたりの答えよりも自分の言葉で考えを述べたときが一番、面接官に興味を持って話を聞いてもらえました。

また、面接が終わる度に聞かれたことや答えたこと、反省点を記しておくことが次の面接に向けて役に立つと思います。私はそれを行わず、面接が進むにつれてやっておくべきだったと後悔したため、これからの方はぜひやってみることを勧めます。

4. 心がけておくべきこと

まずは、やはり「自己分析」です。私が民間企業も受けた理由は地元での就職志向が強く、司書職で就職できればさらに良いと考えたからでした。結局、地元で司書職の募集があり、事なきを得ましたが、自分の就職への軸を基に行動することが第一です。面接では、「なぜ司書（図書館）か」というよりは、「なぜこの地方自治体なのか」という趣旨の質問が多く聞かれました。このとき、地元就職をしたいという軸が自分の中にあっただけで面接でも自信を持って話せました。自分自身のことを聞かれる面接試験に向けて、自分がやりたいことや大切にしたいことをはっきりさせておくのがまずやるべきことです。

次に、受験する図書館・自治体のことやそれに対する自身の考えをまとめておくことです。加えて、就職を考える上で、図書館実習事前レポートや、本学卒業生で司書職に従事する先輩方のお話は大変身になりました。そうした機会はとことん活用し、自分の考えを整理してください。それが民間企業・公務員試験共々、就職活動の役に立つはずですよ。

さらに、接客業のアルバイトをしてください。司書は本が好きであればいいわけではなく、利用者と接する機会が多くあります。私も、人と接することが得意ではありませんでした。アルバイトを契機に以前より人と接するようになり、観点も変わりました。また、司書になるために苦手な接客業に取組み、その苦手を克服したことを強みに面接に臨むことも出来ました。面接対策や司書への経験を積むうえでも、接客業を経験してください。

5. おわりに

司書職の採用は多くの場合、周りの内定が出ている秋期に始まり、12月に結果が出るうえ、採用枠も僅かです。不安や焦りもあると思いますが、精神面で負けることなく自分のやりたいことに諦めずに立ち向かい、良い結果を手にしてください。

最後に、就職活動を振り返る機会を与えて下さった中村先生、ありがとうございました。